

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II. 家族との支え合い

### III. 地域との支え合い

### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!  
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない  
訪問調査を実施しております

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和3年10月15日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

令和3年2月26日 集計

家族アンケート	(回答数)	12	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3890101573
事業所名	グループホーム四葉問屋
(ユニット名)	ユニット2
記入者(管理者)	
氏名	宮下由里
自己評価作成日	令和3年9月13日

<p><b>【事業所理念】※事業所記入</b> 健康 すべての人々の健康で心豊かな生活文化の向上を目指します。愛情 すべての人々の心豊かな愛情で、より良いサービスの提供を目指します。幸福 すべての人々の幸福を思い、常に相手の立場に立った心と行動を目指します。希望 社会に貢献し、社会の信頼を得て発展する、希望ある企業を目指します。</p>	<p><b>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</b> 1. 充実したケアプランの作成 カンファレンスを行うことで、ケアについて発展的な取り組みが出来るようになり、ケアプランにも反映できています。今後は特定のスタッフだけでなく、それぞれが提案ができるよう考えたい。 2. 食事を楽しむ 体調面や本人の希望から居室(一人)で食事される事はありますが、それを当たり前とせず日々スタッフは関わりを持って食事を楽しもう工夫ができています。リスクに対して過剰になる事なく本人に合った食事形態について検討して提供している。 3. 運営推進会議を活かせる コロナ禍で文書開催となっているが、以前に会議で提案のあった利用者様の昔の様子から分かる写真やアルバム等の協力について、何人かの家族からの協力を頂けた。スタッフも本人を知る良い機会となり、関わり方の質の向上にも繋がると感じている。 4. カンファレンスの記録 カンファレンスでの決定事項の経過については、評価日を設けて見直しのサイクルができるように取り組んでいる。記録についての課題はスタッフが認識しており更なる改善が見込める 5. 自己決定支援 利用者様のペースに合わせたケアは概ねできている。意思決定が難しくなれば家族の意向も尊重できる関わりも持てている。また職員は命令口調にならないよう気を付け、言葉使いの見直しも行い、意思の確認ができるよう関わり方にも気を付けるようになっている。</p>	<p><b>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</b> 法人全体で「帰ろうか宣言」を掲げ、就業終了時間15分前から業務が終わっていたら帰ることをすすめている。事業所ではこの一年間は離職者はなく、取り組みの成果を感じていた。 ベッドで寝過ごす時間が長い、紙おむつを使用する利用者から「トイレに行きたい」と希望があり、ミーティング時の話し合いで「難しいかもしれないが、やってみよう」ということになり、複数の職員で介助してトイレに座ることを支援した事例がある。支援を繰り返すうちにトイレで排泄ができることもあり、本人から「ありがとう」という言葉があった。 看とり支援期間に、本人の希望に沿い、家族と協力合せて自宅で過ごす時間を持てるよう支援した事例がある。 ひとりりて出かけて行くような利用者には、夜間であっても職員が付き添い、本人が納得いくよう支援している。</p>
---	---	--

**評価結果表**

**【実施状況の評価】**

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>										
<b>(1) ケアマネジメント</b>										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	フェイスシートやサマリーなどで確認したり、会話を通して、一人ひとりがどうしたいかを傾聴したり、また表情からも思いを知るよう努力している。				入居時、本人から聞いた事業所での暮らしの希望は、アセスメントシートの本人希望・要望欄に記入している。介護計画見直し時期には、職員全員がその利用者についての情報を、ミーティングレジュメの「ケアについて検討すること」欄に記入して把握に取り組んでいる。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情をみたり、職員間で話あったりしている。本人の気持ちになって考え行動するようにしている。					
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	今はあまり出ていない。普段の傾聴から管理者と本人の思いは話し合っている					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプランのことやその日にあったことなど記録や申し送りに残している					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思い込みをしないよう本人に聞いたり押し付けられない様子を付けている					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	利用者様とお話しし家族様にもお聞きしてはいるが、まだ把握しきれていないところがある				フェイスシートやアセスメントシートには、入居時のADL(日常生活動作)等の情報が多い。職員は利用者のことをよく知っているが、さらに、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境等の情報をまとめてみてはどうか。支援の参考にしてほしい。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ご本人ができることをやってもらっているが、もっとできることはあると感じるが、利用者様の拒否もあり、うまくいかないこともある。					
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	表情や行動などで不安をなくすよう声掛けしている					
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	その都度話の傾聴を行っており把握に努めている					
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	話し合いや申し送りで情報を共有している。					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ご本人が何を求めているか気がついたことなど記録したり職員同士で話し合ったりして把握に努めている			◎	サービス担当者会議(ミーティング)時には、事前に職員個々が作成したミーティングレジュメの「ケアについて検討すること」欄の内容をもとにして話し合っている。帰りたい気持ちが強く、ひとりりて出かけて行く利用者について、「その行為を問題行動と捉えるのではなく」本人の立場で検討することに努めている。	
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	月1回のミーティングで話し合いをしている					
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	モニタリングを月に1回担当が行っている					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族の意向を聞いてケアプランを立てている					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	利用者様、家族の思いを大事に作成している。	○		○	家族からは事前に意見や要望を聞いておき、サービス担当者会議時には、その内容を踏まえて職員で話し合っている。サービス担当者会議時、医師や家族も参加して、胃ろうを造設するかどうかを検討したことがある。造設はしない方針で共有し、介護計画を作成した事例がある。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	出来る限り対応できるよう努力している					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人達との関わりが持っていない。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランはすぐ見れるところに設置して共有している				ユニット毎、すべての利用者の介護計画書を一冊にファイリングして内容を共有している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	介護計画という項目で記録を行うようにしている。職員同士把握できるように大事な事は申し送りに送るようにしている				介護計画の支援内容に番号を振って、介護記録にその番号と実践状況を記録している。	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	個別に記入している。周知したい部分は申し送りであげて把握できるようにしている。				介護記録に、実践状況と一緒に記録している。	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	気付いたことなど申し送りに送り、個別に職員同士話し合うことは多々あるが、全部を記入できていない。車椅子のフットレストの改善、入浴介助方法など				介護記録に、気づきやアイデアを記録しているが、口頭でのやり取りになることが多い。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月ごとの見直しを行っている			◎	管理者は、期間を表にして管理し、3か月ごとに計画を見直している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1で担当職員がモニタリングを行い、ミーティングで話し合いを行う			○	毎月、利用者個々の担当職員がモニタリングを行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた場合は、本人や家族に連絡し見直しを行っている。			○	看とり時期に入った利用者については、新たに計画を作成している。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	カンファレンスを行ったり、月1回のミーティングにて担当者会議を行っている			○	事前に全職員がミーティングレジュメ(業務について等の意見を書くシート)を記入して、それをもとに、月1回その日の勤務職員でミーティングを行っている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	新型コロナの関係で以前のように時間が取れないが、普段からどうしたらいいかを話しているのので、問題点をスムーズに出せている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎月日には違うが、日中で参加できるスタッフの多い日を選んで、行っている					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	最初にレジメを配布し記入してもらい、まとめた物を各自確認して頂く。スタッフ同士で話した内容も口頭で伝達も行っている。			◎	ミーティング報告書を作成して、内容を確認した職員は押印するしくみをつくっている。夜勤専門職員も同じようにしている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	現在はタブレットにより申し送りが出来ており、確認が取れるようになっている。利用者の送りやスタッフの送りがある。			◎	モバイル端末のスタッフ連絡欄などに入力しており、共有する必要がある内容にチェックを入れると、掲示板(モバイル端末)に反映される。職員がその内容を確認してチェックを入れると、誰が確認しているか、確認していないかが分かる。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	重要事項もスタッフの申し送りに行っている			◎		
<b>(2) 日々の支援</b>										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その日したい事の確認は、あまりとれていない。会話の中で何がしたいかは把握するようにしているがひとりひとりではまだ難しくできていない。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴に行くかどうかの確認、衣服を選んで頂く。食事の選択メニューを選ぶ。食事会での食べたいものを一緒に考える。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	ほとんどの方が自分からは思いや希望を言えない。その中でできるだけ、自分で決めたり、納得してもらえよう頑張っている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	1人1人に合わせた支援が出来るように心がけているが、難しい時もある。本人に確認をとりながら、それぞれの支援を行うようにしている。介助のいる方の就寝に関しては出来ないと感じる					
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	入居者様が活き活きた日々を過ごせるよう雰囲気やその時々に応じた言葉かけを行い、笑顔で明るく話しかける様に努力している			◎	誕生日会は誕生日当日に行っており、職員がケーキを手作りして、寄せ書き色紙をプレゼントし、みなでハッピーバースデーを歌い祝っている。成人式を迎えた職員が振袖姿を見せに来てくれた。クリスマス会などは、職員が仮装して利用者をお祝いしたり楽しませたりした。お彼岸にはおはぎ、5月には柏餅など、季節に応じたおやつを手作りしている。	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	表情や仕草から思いや意向を感じ取り、共有できるように掛けている					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	今年度は丁寧語を使っているよう意識することになっている。勉強会の資料を使い、共有し感想を記入して行く様になっている	◎		◎	法人全体で接遇方針として、丁寧語で利用者や接すること、伝わるあいさつをすること、身だしなみに気を付けることを挙げて取り組んでいる。月1回、テーマに沿って職員が資料を用意し、勉強会を行っており、3か月に1回、権利擁護について学んでいる。資料は回覧して、職員個々に感想コメントを書くしくみをつくっている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	利用者様に敬意を示しさりげなく困った時には、支援をしていけるよう配慮している。排泄の声掛けは目立たない様子を付けている			評価困難		
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄はおむつやパットなど新聞に包んで移動したり、プライバシーには気を付けている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室へ入る際には、必ず、声掛けノックを行うようにしているが、カーテンにして開けている方など、声掛けながら、もう入ってしまった事が多い。				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	勉強会の資料などで共有し遵守している					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者や介護される一方の立場におかず、利用者に向けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員は利用者様に感謝の言葉をかけ気持ちを伝えている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	複数の入居者様で一つの事を行っていただくなど共に協力し合える喜びを感じていただけるよう努力している					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者につまぐ力を発揮してもらい場面をつくる等)	○	関係を観察しつつ、その時々に応じた対応を行っている。席は、特に配慮している。リビング内でもキッチン前にも席を用意し場合によっては移動していただいて過ごしている。			◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	当事者、他の入居者様にも不安が残る事が無いよう、声掛けやフォローを行うように心がけている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	コミュニケーションの中で知ることはできるが、全て知っているわけではない。家族様はなかなか面会できないこともあり、家族からの情報は少ない。身近な家族様には以前より聞いている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	話の中で知る事は、皆で共有するようにしているが、はっきりと分からない事が多い。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	新型コロナの関係で、外出が全くできない日が続いている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	面会制限もあり、なかなか直接会えない日が続いている。Skypeにより面談されることはある。8月1日～10日まで面会可能で来られた方も多い。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	月1回必ず行っていた外出も1年でできていない。落ち着かない利用者には、ロビーや外に出て1周することは行っている。まだ涼しい時期は少し駐車場にすることも行った。	○	△	△	この一年間は、敷地内に出てみるくらいに止まっている。さらに、状況をみながら、利用者や職員の気分転換を図るような取り組みに工夫はできないだろうか。  調査訪問日は、車いすの利用者と職員が敷地内に出て過ごしていた。ベランダに出て過ごすようなこともある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方などの外出支援には至っていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	外出は控えていたが、お天気の良い暖かい日は、ベランダにお連れして、外の空気を吸っていただいた。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナが落ち着けば行けるようにしたい				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	共に学び理解し状態や変化に応じたケアについて話し合いを行っている。不安そうしている時は出来る限り寄り添うように心がけている。				令和3年2月からの取り組みとして、看護職員と、利用者個々の担当職員でリハビリメニューを作成し、支援している。平行棒を使用した歩行訓練、ゴムバンドやボールを使った機能訓練などを行っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能訓練の重要さは理解している。ご自分で出来る事は、声掛け行ったり、口腔体操なども行っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようになっている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事はして頂けるように声かけを行っている。調理、洗濯物、配膳の返却、その人によって違うが、場面作りを頑張っている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日常の中に、楽しみごとや出番を作るように努力している。				誕生会の折りには、本人からあいさつする場面をつくっている。亡くなる5日前に誕生日を迎えた、100歳を超える利用者の誕生会には、本人自ら立ち上がり、みなにあいさつし、お礼の言葉を伝えたようだ。ミニ夏祭り、秋祭り、運動会等、室内で楽しむ機会をつくっている。 お菓子作りがとでも上手な男性職員がおり、おやつに本格的なスイーツを食べることができる。中でも、プリンが利用者にも人気ようだ。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、定期的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	1人1人何ができるかを考え、取り組みを行っているが、拒否も多く、また重度の認知症の方への役割などまだまだ出来ない部分もある。毎月の貼り絵のお願いや行事の代表などお願いしている	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	そのような機会はもともと少なかったが、新型コロナの関係で進めていない。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	色や形を見てそれぞれ利用者の好みなどを把握に取り組んでいる				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  新型コロナウイルス感染症対策期間は、散髪などが難しかったため、髪の毛が伸びた状態であったが、ピンやカッチン止めで止めたりして対応した。洋服は家族が用意したり、職員が本人に似合う服を買ってきたりして対応した。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	散髪の際には、どう切りたいか？を聞いて頂いている。洋服の購入を希望される場合、持っている衣服をみて、好みそうな衣服を選んでくようになっている。一緒にに行けるようになると、選んで頂ける。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定ができにくい方は、表情をみたり、ゆっくり待って支援している。本人の気持ちに沿って、一緒に考えたりアドバイスすることが出来る。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	今は外出はできないが、行事などその時に応じた服装と一緒に選んでいる				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、髪型や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	汚れているときには、そっと声かけを行い、更衣したり、髭剃りやうまぐ出来ない時は、手伝っている。さりげなくカバーできるように心がけている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	施設へ来所してのカットやカラー染めになる。毎月あるのだがコロナの関係で期間が延びている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	清潔な心がけている。本人が拒否をすることも。難しい方もおられるが、私たちが見ている中で本人らしさが保てるよう支援している			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している。少しでも美味しく食べていただけるよう味付けや、見た目など気を付けている。				建物内厨房から食事が届く。朝食と、月2回の食事会(昼食)は、利用者の希望を踏まえて献立を立て、いなり寿司、ちゃんぽん麺、いも炊きなどを一緒に調理して食べている。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  寿司が好きな人が多く、11月には厨房で握った握り寿司が昼食の献立に採り入れられる予定となっている。その日を楽しみにしている利用者もいるようだ。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事会の際に何が食べたいかお聞きしたり、出来る調理のお手伝いをお願いしている。食材の買い物は、今は職員のみで行っている。					
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来る方には食器吹きや配せん、スタッフの見守りでの野菜のきざみなど行っていただいている。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	鯖のアレルギーがあるなど、アレルギーは把握している。好きな物嫌いなものは、会話にて把握している。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節を感じさせる料理や果物など気を付けて提供している。おはぎであったり、お団子、草餅など作るようにしている。利用者の希望で片栗粉の練ったものも希望によりお作りする。					○
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	便秘の方は服薬ももちろん用いるが、牛乳を入れたカフェオレを水分補給時に飲んで頂いたり、朝の職員の朝食では、器も視野にいれて提供している。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人様の物を使っていたらいい。麻痺がある方は、使いやすいお皿に一部変更して提供している。					評価困難
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事会や行事などで一緒に食べている。普段は介助が必要な方の横につき、見守りを行っている。					評価困難
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	声掛けしながら、○○ですと伝えて食べていただくようにしている。		◎			○
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養バランスは普段は栄養士が献立を屋タと作っている。朝食は職員が考えて献立を立てている。食べれない時は、食べれる物を提供し、少しでも口から食べていただけるよう支援している。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量や状態によっては水分チェックを行っている。医師と相談しエシエンシアをお出ししたり、点滴を行うなど状態をみて行っている。食事の形態もその都度厨房に提出して変更している。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	厨房ミーティングがありグループからも意見や要望があれば伝えていく。朝食は職員同士で話し合っている。					○
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板や布巾は消毒を行う。賞味期限の切れた物は、廃棄する。冷蔵庫の清掃も日を決めて行っている。					
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	資料などで共有し把握している。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	痛みの訴えや口腔内の状態をみて必要ならば、歯科医にお願いする。食べ方など、いつもと様子が違うようなら送りにあげるようにして、把握するようにしている。			○		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	往診時にアドバイスを受けている。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後に声かけを行い、誘導している。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	本人様に行ってもらった後、仕上げ磨きをおこなっているが、拒否をされる方もいる。お昼前には、紅茶でのうがいもしている。					評価困難
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	本人からの申し出や職員の確認により担当医に往診依頼をしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	職員2人対応でのトイレ使用を始めて不穏が多少減ってきた方もおられる				ベッドで寝て過ごす時間が長い、紙おむつを使用する利用者から「トイレに行きたい」と希望があり、ミーティング時の話し合いで「難しいかもしれないが、やってみよう」ということになり、複数の職員で介助してトイレに座ることを支援した事例がある。支援を繰り返すうちにトイレで排泄ができることもあり、本人から「ありがとう」という言葉があった。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会の資料などで共有し理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表にて把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	身体の状態や様子を見てその時々にあった支援を行っている	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	看護師や職員で改善できる点は話し合っている。牛乳、ヨーグルト、バナナなど行ったり、水分を気にかけたりして行っているが、入居者様が拒否をされることも多く、改善出来ていない人もおられる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	チェック表にて声掛け行いが、断られることも多い。落ち着きがなくなったと思われる時には、誘導を行う事もある。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族様に現状をお伝えして使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	昼夜でパットを使い分けている方もおられます。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	体操は毎日行っている。個々によっては運動を声掛けしたり、起床を声掛けするが、拒否をされることが多い。乳製品を使用したりホットタオルやおなかのマッサージなども行っている				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	時間や曜日、機械浴はだいたい決まっている。入れない時は清拭を行うようにしている。個浴は、本人様の希望に答えるよう合している。夕方入りたい方もおられる。	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。			○	入浴剤を使ったり、ゆっくり疲れるように支援している				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			○	ご自分で出来るところはして頂き、転倒のないよう支援行っている。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。			○	個浴では、気分がいい時に、いい時間に入ってもらっている				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			○	入浴前には必ずバイタルを測り状態を確認する。入浴後は水分を取っていただくようお願いし、声掛けを行う。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	その日の状態をみて声掛け行っており、本人からの訴えもあれば聞いており把握に努めている。				現在は利用者の半数ほどが入眠剤などの薬剤を使用している。不穏な状態が続く利用者については、24時間シートで傾向を調べ、主治医に見せながら相談し、薬剤の変更につなげ、現在、落ち着いて過ごしているケースがある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中は起きていただけるようにレクリエーションなど声掛け行っている。しかし、参加してくれない利用者様もおられる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	薬に頼らない方がいい事は、理解している。Dr.と相談しながら、家族様にも声かけ行い、服用していただいている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者が希望したら、居室へ誘導して少し休んでもらっている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望をする場合は、職員が電話をかけて、対応している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご自分の携帯でかけている方も、出来ない時は介助し電話をされる。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人様がかけてほしいとの申し出があった時は、職員が対応してかけるが、電話中は、居室よりで、お話しできるように配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	契約時に本人に渡さず、家族様に渡す形になっている方がほとんどであるが、年賀状やはがきは、本人様にも確認して頂いている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	落ち着かれない時など、家族様に電話の協力をお願いしている。				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	家族様の許可を得て紛失しても大丈夫なように持って頂いている方もおられる。				/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	外に買い物には行けない状況が続いているが、ロビーにある自動販売機で自分の好きなジュースを購入することもある。					
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	できていない。要る物があれば、職員が代行して購入する。					
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使うように支援している。	△	希望があれば家族様と相談しお金を持って来て頂き、所持出来る方は持って頂いている					
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族様と話し合っており、落ち着かれる為にもたれている方もおられる。					
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	契約時に家族様と確認をとっている。必要なものがあれば、連絡し購入する。					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに採れない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	遠方の方でもスカイプによるビデオ通話するなど取り組んでいる。看取りの方に關しては、施設内の面会をマスクやフェイスシールドを付けて可能としている。	◎		◎	専門医(皮膚科・整形外科)の受診は職員が付き添って支援している。看と支援期間に、本人の希望に沿い、家族と協力合せて自宅で過ごす時間を持つよう支援した事例がある。	
<b>(3) 生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は夜間以外開けている。ユニットのドアも鍵は基本かかっていない。ロビーには、かわいいお花や小物が飾ってある。事務員がすぐ対応してくれており入りやすさを感じる。	◎	◎	◎	玄関前に駐車場がある。玄関ロビーは、掃除が行き届き、事務室の職員が笑顔で対応してくれる。建物の周りには季節ごとに楽しめるよう、いろいろな花木を植えている。5月には、玄関前にこいのぼりを飾った。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを揃えていないが風景も共用空間等、家庭的な雰囲気を感じていないか等。)	○	利用者様の写真を貼ったり、みんなで作ったポスターを飾っている。季節の生花を置いている	◎	○	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	換気は常にしている。トイレや居室での排便の後の臭いも消臭剤をかけるようにしている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	キッチンが近いので料理の匂いは感じることができる。季節を感じる物を居室に飾ったりします。折り紙で作った飾りなど。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	色々なお手伝いをされる中で利用者同士が会話を楽しんでいる。程よい距離を保って見守りだけで過ごしていただけることもある。居室へ帰りたい希望があれば、誘導を行う。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	浴室は見えにくい設計になっている。トイレは、リビング内にあるが、引き戸で見えにくくしている					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	飼っていた犬の写真を飾ったり、使っていたぬいぐるみを置いたりしている	◎		◎	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	歩いて帰られる方に、居室がわかるようにネームプレートをつけたり、トイレの表示をしたりしている。				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	洗剤などは、分からないように置いている。掲示ものはテープにて対応している					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に入るように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞やリモコンは置いているが、危ない物は、テーブルには置かない。食事時にお茶のおかわりに急須をテーブルに置くことあり。					
29	鍵をかけたケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけた出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関の施錠は夜間以外しないようにしている。	◎	◎	◎	日中、玄関は自動ドアで開くようになっている。ひとりだけで出かけて行くような利用者には、夜間であっても職員が付き添い、本人が納得いくよう支援している。身体拘束についての勉強会で学んでおり、家族には入居時に鍵をかけたことを説明して理解を得ている。	
		b	鍵をかけた自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	契約時に了解をとっている。どうしても危ない場合は、一時的にロビー側の鍵をかける場合もある。施錠を望む家族様は現在いない					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけたとしても必ずよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	モニターが各所についており、万が一出た場合、確認を行うようにしている。日中は事務の方もおられ、それぞれ玄関に行かれる方も近くで見守りしている					
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントを読みある程度把握できている。今はなかなかできていないが、家族様が来所の際にはお聞きし把握に努めている。				/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	いつもと違うと感じたら、すぐ報告相談を行うようにしている。利用者がスタッフの申し送り必ず送るようにしている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重症化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	何かあれば、看護師、管理者に連絡し、かかりつけ医にも相談を行うようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	管理者に報告し家族にも連絡し受診するようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	契約時に希望を聞く。たんぼぼクリニックやいろはホームケアクリニック、いづみ診療所に対応している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	往診以外に外部に受診を希望される場合は、家族様と相談を行い、家族様がお連れするか、こちらが行くのかを決める。主治医が情報提供をかねて下さるので、持参するか送って頂く。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	施設からは生活情報提供書を作ってお渡ししている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	情報交換や相談には努めている。今は面会には行けないが退院の際には、面談を行えるようお願いしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	社長や部長が関係作りは行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	正看護師がユニットごとに1人おり、平日はどちらかおられるようシフトを調整している。看取りなど、先生の判断で訪問看護が来ているため、相談しながら行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	たんぼぼやいろはクリニックにいつでも相談できる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝バイタルを測定し変化があったら、すぐに報告している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	良く出る薬は職員も把握しているが、まだ理解できていない職員もいる。変更の場合は申し送りを入れるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬BOXを準備している。朝昼晩前と下剤入れがある。夜勤が準備し、早出が確認、飲まず職員が確認することになっている。BOXにも数を記入している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服用した後の状態や様子に変化があれば記録したり申し送りをを行う。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	様子など記録に残し変化があれば必ず報告する。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居前に説明を行っている。状態の変化があれば、その段階で、先生、家族、管理者で話し合いを行う。看取りの同意書ももらう形にしている。				この一年間では4名の利用者の看取りを支援した事例がある。看取り支援開始時に、医師や家族と話し合っている。利用者の意向もあり、家族と協力して自宅で過ごす時間を持つよう支援した事例がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ミーティングやその場になった時に話し合いを行っている。終末期をどうするのか、職員、家族、担当医で話し合いを行い、方向性を決め対応する。	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	グループホーム四葉問屋で看取りを経験した職員ばかりである。経験は浅いが、思いは強いと感じている。夜勤など不安があれば、いつでも管理者に電話をかけてもらうようにしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居前にお話をさせていただいている。終末期になってきたら、再度ご家族様と話し合いをもつようになっている。理解を得た方の看取りを今まで行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をよりよく暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の利用者が日々をよりよく暮らせるように家族様との状態の報告や担当医や訪問看護など連携を図りながら、チームとして支援していく体制ができています。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	終末期の対応で、遠距離の方もおられ、コロナの関係でなかなか帰ってこれない状況であった。電話や写真、ラインを使って、状態を報告し支援を行った。看取りに合えず、亡くなって息子様帰られるまで、利用者の居室に過ごしていただいた。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	新型コロナウイルス感染症の対応も全職員行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	新型コロナウイルスは、去年度有料四葉で発生したこともあり、手順など勉強会の資料などで確認をもらっている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	情報はいち早く知るよう意識しており、社長、事務所より最新情報は送られてくる。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	愛媛県内、松山市の情報収集に努めている。施設内でもレベルを決めており、レベルにより対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は出社する際にマスクをつけて、体温を測り、体調を確認後、手洗い、うがいを行って仕事に入る。利用者も紅紙でのうがいを行う。来訪者は、主治医、看護職以外は、基本中には入れない。看取りの家族様は2名+他2名だけ可能。				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会ができない中、状態の変化など、電話にて報告を行っている。いいことだけでなく、状態をきちんと報告し一緒に本人を支えていく関係を築けるようにしている				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 月に1回、利用者個々の担当職員が手紙を書き、写真添えて送付している。 年4回、ユニットごとの便りで行事の様子などを報告している。 電話やメールで様子を伝えている。 年4回発行するユニットごとの便りで行事報告を行っている。また、職員の自己紹介コーナーを設けている。 運営推進会議の報告書を家族全員に送付している。 電話連絡時や面会時に聞いている。 玄関にパソコンを設置しており、そこからテレビ電話で利用者と話ができるようにしている。また、窓越しでの面会も行っている。県外の家族については自宅からテレビ電話で面会するケースもある。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	今の状態では、なかなか気軽に入浴できない。スカイにて面会をされる方もおられるが、認知が進んでいる方が多いので、テレビ電話も理解できない。明るく対応を心がけている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	今はホームでの参加は難しい。早く以前のようになれることを願っている	○		評価困難	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	お便りや運営推進会議が書面での開催になっており、日常の様子は伝えている。写真も送るようにしている。		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	ヒヤリハットや事故報告も運営推進の報告の中で行っており、家族様の要望にもお答えしていくようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族様が差し入れやテレビ電話に来られた際には、本人の近く寄り添って伝達を行っている。その後、玄関にて状態の説明は行っている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進の報告書の中で設備の改修など報告している。行事については、いつも報告出来ている。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	今はできていない。新型コロナが落ち着けば、いつものように再開したい				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	その人その人の起こりえるリスクは、家族様に説明している。転倒のリスクのある方には、その旨をお伝えし、ベットを低床にしたり、マットを敷いたりすることを話し合いを行う。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	定期的に運営推進会議の報告書を送り、状態の変化では電話を行い、緊急の場合は、来て頂くこととしている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には社長もしくは部長、管理者、保証人様と書類の確認、サイン、印鑑をいただく				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	医療的な処置が必要になった場合は、主治医から状態の報告、説明をしていただく。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	改定や変更のある場合は家族様に説明、同意を得て行うようにしている。				
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	社長、部長が主に行っており、問屋組合に入っている		◎		地域行事など中止となっており、交流の機会が持てていない現状にある。 さらに、このような時期であっても地域とのつながりを持てるような工夫や取り組みはできないだろうか。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	問屋組合に入っており、新型コロナで大変な中、マスクの提供をしていただいた。		○	×	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	今は事業所に入れないので、難しいが、何かあれば手伝うよと言ってくれている方々は、増えてきている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	今はできていない				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄り寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近所の方と駐車場や近辺で会うと挨拶を行うが、今は、事業所に寄って頂くことはない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	何かあればお手伝いするよと言って下さる方もいるので、新型コロナでもできない状況ではあるが、働きかけは行っていきたい				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	一人ひとり行っていききたいことはあるが、今はなかなか出来ない状況にあるが、安全で豊かな暮らしを楽しめるように考えて支援している				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	新型コロナのことも協力を得ることができるよう、社長や部長をはじめとして取り組みをおこなっている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	今は書面での運営推進会議になっているが、毎回、返信が多数ある。	○		○	時期をみて、集まる会議を行ったり、書面で会議を行ったりしている。書面会議時は全員の家族と、地域住民、市の担当者、地域包括支援センターの方が参加している。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	評価への取り組み状況は報告している。			○	報告書に意見や感想を記入する用紙と返信用の封筒を付けメンバーに送付している。外部評価実施後は、評価結果や目標達成計画の内容を要約して資料をつくり報告した。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	提案がでていれば、日々の取り組みの中で取り入れ職員の申し送りで状況を確認する			◎	△	家族等から散歩の希望があり、敷地内の散歩ができるよう支援することにつながった。今後はさらに、メンバーにいろいろな意見や提案を出してもらえるような議題にも工夫してみようか。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	書面での開催も同じようになっているので、工夫が必要である			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録は職員にも確認してもらい、市役所、包括、民生委員、家族様にも報告している					
<b>IVより良い支援を行うための運営体制</b>										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	入社時理念についての説明は行っている。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	改めて理念をお伝えできていない。運営推進会議の書面の中で説明していきたい	○	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修を受けられるときには、希望に合わせた研修を受ける機会を作っている					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ミーティングの中で、勉強会の資料を作り、勉強を行うようにしている。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境、条件の整備には、部長をはじめ改善に努めてきている。まだまだ職員に納得してもらえないように整備に努めていく					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	管理者は同業者と交流する研修に行くことができたが、今は、研修も慣れ形になっており、再開できたら、取り組みをしたい					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の中でストレスがかかっているなど感じられたり、他職員からの報告があったりしたら、面談を行うようにしている。	◎	○	○		法人全体で「帰ろうか宣言」を掲げ、就業終了時間15分前から業務が終わっていたら帰ることをすすめている。事業所ではこの一年間は離職者はなく、取り組みの成果を感じていた。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	権利擁護委員会で3か月ごとに勉強会の資料を配り確認してもらっている。ミーティングでも勉強会の資料を作って確認を行う。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	なかなか全員が集まれる時がなく、同じ勤務の時に職員とケアについて話し合うことを行っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	入浴の際、身体に傷がないかを確認し気がついたことは、申し送りで送る。			○		
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	疲労がある様子が伺えたら、話を聞くようにしている。					不適切なケアを発見した場合は、管理者に報告することになっている。ミーティングの議題にして話し合う等している。
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	年間の課題になっており、勉強会の資料にて何度も勉強している					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	今は身体拘束の方はいないが、現場の状況で話し合い、点検している					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	今は拘束や施設への要望はない。現在身体拘束の方はいません					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	勉強会で確認を行っているが、理解しているとは限らない					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	パンフレットは置いていない。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	包括支援センターとは何かあると連絡はとっているが、連携体制は築けていない					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し把握できるように心掛けている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強会で学習している。新しい職員など実践できるように訓練を行いたい				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットや事故報告は検討し再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日頃からスタッフ同士で意見を交わし、管理者にも報告あり、検討し、事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情マニュアルは作っている。苦情が発生した場合は、即上司に相談し迅速に対応するようにしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	管理者にすぐ報告があるため、部長、社長に報告を行い、対応するようになっている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は、申し送りに記入し、管理者に報告を行う。納得を得ながら前向きな話し合いを行い、職員にも申し送りして伝えるようにしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	個別ではあるが管理者が利用者との話の中で傾聴する機会も持っている。事務所の前にボックスを置いている			○	個別に聞いている。食事会時の献立について意見を聞いている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議の中で文書開催の書面の中に記入できる場所を作っている	◎		◎	運営推進会議の報告書をすべての家族に送付して意見や感想を聞いている。
		c	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約の時は相談ができる情報提供を行っているが、入居後はなかなか出来ない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	新型コロナで施設間の移動の自粛になっており、控え気味ではあるが、短い時間で来れることはある。その際、何か変わったことはないですかと必ず聞かれる。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	一緒に現場で仕事をすることで意見や様子についても把握に努めるようにしている。			◎	職員全員、ミーティングレジュメの様式に意見や提案等を書くくみをつけており、意見等があればミーティングの議題にして話し合っている。管理者は、気になる職員がいれば、声をかけて話を聞くようにしている。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価の前に自己評価を行ったり、賞与の前に自己評価を行って提出している				外部評価実施後の運営推進会議時に、評価結果や目標達成計画の内容を要約して資料をつくり報告している。モニターをしてもらうような取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	課題を学習し、意識統一していたが、日が経つにつれ、うすらいっていているようである。管理者がもっと発信するべきだった。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成計画は立てている。取り組んでいたが、だんだん薄れている。もっと発信しないといけない				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果は運営推進会議にて報告しているが、モニターはできていない	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	達成できていることもある。まだまだ取り組みが甘いのでやり直していきたい				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	それぞれの災害マニュアルを作っている。職員にも分かる用、確認してもらっている				年に2回、併設有料老人ホームと合同で避難訓練を行っている。さらに、地域とのつながりを持って、協力支援体制確保への取り組みもすすめてほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	夜間設定の避難訓練は行った。毎年行っている。館内全体の避難訓練ができていない				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は必ず、点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	近所の電気店やトヨタ、問屋組合にはいざという時の協力要請を行っているが、合同訓練は出来ていない	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域のネットワーク作りにはまだ参加出来ない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域に向けての情報発信がまだできていない。				特に取り組んでいない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方から相談があれば支援するようにしている		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	新型コロナの関係もあり、活用できていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	新型コロナの関係で、今は受け入れ出来ない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	書面での開催の運営推進会議に参加して下さっている方もおられる。			×	